

記 録 簿

事 項	第1回牧之原市学校用地候補地選定委員会
日 時	令和4年8月31日(水) 13:30~16:45
場 所	史料館2階ホール
出席者	別紙参照
内 容	委員会の進め方を確認し、委員の紹介、現地視察を行い、各委員より意見を求めた。
教育長	<p>【教育長挨拶】13:35~</p> <p>榛原地区、相良地区のそれぞれに1つずつ、義務教育学校を作ることが決まりました。そこで、今年度から学校施設を整備するための基本構想、基本計画についての検討に入っております。それに先立ちまして、新しい学校をどの候補地に選定するのかについて、専門家の皆様、地域、保護者の皆様にご検討いただきたいということから、学校の候補地選定委員会を設置したところでございます。牧原市の将来の姿を描いて、その検討を重ねる中で、委員の皆様には、新しい学校づくり計画にあります、いくつかの候補エリアから学校を建設するのに最もふさわしいと思われる場所のご提案をいただきたいと存じます。そのことを基本にしまして、新しい学校づくり、検討会で検討を重ね、候補地の決定は、学校施設整備基本構想・基本計画の中で、その策定をもって行う予定であります。限られた期間ではありますけれども、委員の皆様の知識、経験、実績に基づきまして、それぞれの立場からご意見を出し合います。ご協力をいただきたいと思っております。それでは、委員の皆様、よろしくお願いいたします。</p>
水野室長	<p>【事務局より委員紹介】13:40~</p> <p>【委員長、副委員長の選出】13:45~</p> <p>市の都市計画審議会の会長を歴任されており、牧之原市のまちづくりを熟知されている佐藤先生を推薦いたします。</p>
水野室長	<p>より佐藤委員の推薦がありました。いかがでしょうか。</p>
会 場	異議なし
水野室長	<p>それでは佐藤委員に委員長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。次に副委員長ですが、委員長に指名していただきます。佐藤委員長、お願いいたします。</p>
佐藤委員長	<p>それでは、規定に従いまして副委員長を指名させていただきます。副委員長として静岡大学の島田桂吾准教授を指名させていただきます。島田先生は牧之原市の望ましい教育環境のあり方、学校再編計画に係る委員会の委員長を務められておりまして、計画にご精通されておりますので、どうかよろしくお願いいたします。</p>
水野室長	<p>それでは島田副委員長、よろしくお願いいたします。では佐藤委員長、島田副委員長から挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>

佐藤委員長	経歴から申し上げますと、長年シンクタンクに勤めておりまして、大学教授を経て、現在は地域経済や地域開発を主に調査研究を行っております。牧之原市では都市計画審議会の会長を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。
島田副委員長	静岡大学の島田と申します。あり方検討委員会からですので、今年で6年目となります。いよいよ校地選定ということで、具体的な検討の第一歩となる重要な会議になると思います。地元の皆様のご意見も伺いながら、これからの子どもたちのために、検討を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
水野室長	ありがとうございました。それでは、ここから学校要地候補地選定委員会、設置要綱第6条の規定によりまして、委員会の会議は委員長が議長となっておりますので、進行は佐藤委員長にお願いいたします。佐藤委員長、よろしくお願いいたします。
佐藤委員長	委員の皆様のご協力により、円滑に議事を進行していただいておりますので、引き続きどうかよろしくお願いいたします。それでは、本日の議題でございますが、お手元の取材にありますように、現地の視察を行うことになると思いますが。その前に、学校用地候補地選定委員会の進め方につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
水野室長	委員会の進め方について事務局より説明
佐藤委員長	事務局から説明がありましたが、ご異議ありませんでしょうか。
会 場	異議なし
佐藤委員長	ご異議ないようですので、方針に従って会議を進めてまいります。次に、候補地の考え方について、事務局より説明をお願いします。
内山部長	【事務局からの情報提供】 13:55 計画によるエリア選定の理由から絞り込むまでの考え方について説明（資料3）
内山部長	具体的な候補地の詳細につきましては、バスの中、あるいは現地にて説明をさせていただきます。では移動をお願いいたします。
石川、大石	【候補地視察】 14:10～ 比較表、候補地チェックシート等の説明（資料4-1、資料4-2、資料5）
	榛原中学校の候補地について、掲載されている工事費は、学校建築時に子どもの教育活動を維持しつつ建築する費用として、算定しているものか。
大石	実際にレイアウト等は未定であるものの、仮設校舎等は設けずに建築可能であると想定しており、特別に仮設費等の費用を計上する必要はないという考えである。

通学路について、具体的な整備予定だとか事業計画はあるのか。

石川

今検討していただいているとおり、現時点で候補地が未定であるので、具体的な通学路の整備計画等は現時点ではない。

【意見交換会】16:05～

佐藤委員長

実際に候補地5か所を確認していただいた。全委員から第一印象や思ったことについて、お話を伺いたい。[]からお願いします。

私も今子どもがいるので、下校時のことが一番気になった。今回視察を行った榛原中学校についても、放課後の時間に塾や習い事に行くために、迎えに来る親が多くいた。また通学路についても、スクールバスの運行に合わせて、徒歩、自転車通学の子どもたちが交錯するということを考えると、榛原中の周辺についても、道は十分広いとは言えないと思った。現状に加えて、さらに小学生の子どもの下校があると考えれば課題ややるべきことは多いと感じた。相良地区もよく混む場所であり、3つの候補地とも、道路状況があまりよくないと思った。

2点質問になるが、整備予定のバスロータリーは保護者が使ってもいいのか。バスだけしか使ってはいけない場所になるのか。また、榛原地区の学校について現況の校舎よりも狭くなるのか。お聞きしたい。

内山部長

校舎の大きさは整備の仕方（階層、敷地、校舎の配置等）によって異なるため、これからどういう形になるかは検討していく。ロータリーの使い方等、お迎えの関係のような具体的な内容についても同様にこれから検討していく。ただ、先進地の視察を行う中で、保護者の利用、送迎のための駐車場も用意した方がいいと助言を伺っている。

わかりました。例として掛川のさんりーなどは、山の中を歩けるような遊歩道が整備されている。島田のローズアリーナ周辺も、周りの環境を生かした施設があって、子どもはのびのび遊ぶことができている。校舎とは違うことだが、山の中に遊歩道、アスレチック施設などを整備することも、拡張機能のひとつとして考える余地はあると思う。

地頭方地区は最も通学距離が長くなる。通学方法をしっかり考えてもらいたい。通学路の安全性の確保のための整備も必要になる。学校づくりの検討会のなかで議論をお願いしたい。

今日、視察させていただいた候補地はどこも一長一短がある。一番気になったのは工事費。それと子どもの通学路の関係。榛原地区は消去法でいくとここかな、というのは自分の中にはある。また、工事費だけで考えると二つの候補地で倍以上の差がある。相良地区についてはそこまでの差はないと感じた。一番重点的に見てきたのはそういうところであった。

榛原地区の候補地を見て、街中より山の中で環境はいいのかなと感じた。榛原中学校のところは勝間田川が流れていてグラウンドが調整池を兼ねているとのことで、環境が良いと思った。ただ、ぐりんばるの方は、道路アクセス、子どもの毎日の通学を考えると少し不便か

と思った。相良地区は周りの環境から見ると道路、通学路の問題が気になる。工場も多いので、朝夕の渋滞が激しい上、しずてつジャストラインの営業所の移転もあって、非常に交通の便が悪くなっており、昔に比べて何度も信号に引っかかるようになった。スクールバスの運行により、渋滞に拍車がかかるのではないかと感じている。ただ開校は数年後のことでどうなるかわからないが、交通安全のことは気になっている。もう一つは配置計画によって変わるかどうかと思うが、方角のことも気になった。朝夕の日当たりの件についても委員の間で話をした。なだらかでいい場所なら日当たりの良い環境で成長できるよね、と、そんな話も委員の中で話をした。そういう環境面も考えていただけたらと思う。

_____をやっている。皆さんのイメージにあるのは校舎とグラウンドだと思うが、プールと体育館も必要になることを忘れていただきたい。普通の学校として必要なものとして、校舎、グラウンド、体育館、プールの4つが必須であることを考えてほしい。それがひとつめ。次に、10年後、学習指導要領がどうなるかわからないが体育は週3くらいある。新しい学校は小学校が24学級くらいで、中学が15学級くらいとすると、約40学級ができるということになる。すると、40学級×3時間=120時間体育が行われることになる。そして、コマ数で考えると、週のコマ数は一週で28コマある。月曜日5時間、火曜日6時間、水曜日5時間、木曜日6時間、金曜日6時間で合計28コマ。月火水木金で140コマある。1週間120時間体育があり、コマ数は140時間ある。朝から晩まで体育をいれても20コマ足りないことになる。どこかでくっつけなければならない。また、水泳はおおむね年間10時間必要。6月～7月中旬にやらなければならない。そういうところも参考に知識として考えておいてほしい。

_____ 榛原地区はぐりんぱるが榛原中学校の2倍も工事費がかかるので、_____と同じように思った。中学校の方は水害の心配があるが、工事費にこれだけさがあるのなら、と思う。相良地区は高台になるというのが気になる。子どもが9年間、毎日あの坂を上るとなると大変かな、と思った。そういうことで私は町にも近いし大沢ICのところがいいのではないかなと思った。

_____ 全体から見れば、事業費から比較するとおのずと答えはでるのかなと思った。榛原地区においてぐりんぱるは費用が莫大である一方、現中学校は水害の心配がある。対策として敷地を土盛りすることだったが、道路が沈んでしまうと出入りができなくなる。将来的に大災害時の、例えば仮設住宅等も考えると、洪水でつかる恐れがあるところを選定するのもあまりよくないのかな、と思う。また地盤が悪いということも過去から言われていることなので、そのあたりも心配である。また、校舎を使いながら建築をするということ、レイアウトに制限が出てしまわないか、適正なレイアウトができるのか、心配である。子どものことを考えて、費用面だけで考えてはいけないと思う。相良地区においては、当然、経費で見ればおのずと答えは出ると思うが、最も拡張性があるのと、経費の面からみると、_____も言っていた通り、答えは出るのかなと思った。

_____ どこもいいが、一番気になったのは経費のところ。榛原と相良のグラウンドの経費が莫大となる。教育関係のためならいくらお金を使ってもいい、ということでもないと思うし、

市の財政状況がどうなのかわからないが、これによってほかの事業が手薄になったり、止まってしまったりするのは心配である。また、グラウンドをつぶして新しく作り直すのは抵抗がある。やはり、学校だけがすべてではない。財政のことはわからないが、他に事業のことも両立しながら、考えていってほしい。

と同じく、お金の問題、コストはやはり気にすべき。も言っていたが、3万㎡で相良小学校程度というのが基準になっている。小中学校が一緒になるというのに相良小学校規模で大丈夫かと思うし、3万㎡ギリギリではやはり狭いのではと、考える。そういう実際の学校の運用のところも考えていく必要があると思う。バスの中でもお願いしたが、きちんと安全が担保されるような通学路も必要だし、実際に学校を運営していくときのことをイメージして選定していく必要があると感じた。

牧之原市には適地というのがないのだな、というのが第一印象。子どもの通学しやすいところ、というのが一番大事と思っている。いかに通いやすいか、というのが第一条件だと私は考えている。

学校新築にあたって、耐用年数はどのぐらいを考えているのか。お聞きしたい。また榛原中学の地盤の悪さについて、現の榛原中学の敷地が傾いているのに、その場所に建てるのはどうか、と思う。市の担当はボーリングやって建築すると言っていたが、住民説明の際、まわりの住民は地盤が悪いことはわかっているのに、いろんな意見が出るなどして、説明が難しいのではないかな、と思う。相良地区においては、消去法でいくと、様々な要件から大沢ICのところがいいのではないかな、という気がしている。

内山部長

耐用年数は60年を想定している。

という立場でお話させていただきたい。第1に考えたいのは子どもの安全。それを考えると災害に強い学校を、と考える。もちろん入経費のこともあるが、子どもたちの安全のためにはどの用地が一番いいか、という視点で物事をとらえていきたいと思う。

で、建築を専門にやってきている。今回見てきて、小中学校だからと言ってユニバーサルデザインを考えないわけにはいかないと感じた。学校も誰にとっても使いやすい場所である必要が出てくる。地域の方々の交流の場になることも考えると、高いところにあるのは不安だ、ということも合わせて考えていかなければならない。それと、今、コンパクトシティとか、ファシリティマネジメントといったものにハードの面で関わっていて、今あるものをどのように使っていくか、どう有効活用するのか、というのも大事な視点である。それらについても上手く結合させていかなければならない。より良い教育環境を作っていくために、牧之原市の場合は既存の学校敷地を使えない、というのが難しい地域性になっている。故に新しい用地を求めなければならないということになっている。地域としても何を大事に考えるのか、という視点が必要。また、ぐりんぱるは都市計画決定されている公園とのことで、市として何を一番重視にしまちづくりをしていくのか、という視点は大切にすべき。元々の市の都市計画の部分に立ち返って、本来どうあるべきか、

市として今後、何を一番重視して充実させていきたいのか、という部分は考える必要がある。今話題になっている通学路の問題などは、学校という視点だけでは考えきれないところでもあるので、再編事業を進めるにあたって、各課の横断的な連携を考えていくことが大切で、文科省も指針を出したりしている。色々考えなければいけないことがたくさんある、ということを感じた視察となった。委員の間でも意見を出し合い、今あるチェックシートを充実させながら、牧之原市としての答えを出していく必要があると実際の現場を見て感じた。

図面で見ると、実際に現地を見て感じることはやはり違うな、と改めて感じた。日常的なシーンで考えれば、通学やスクールバスの面、非日常のシーンでいえば、災害時の運用の仕方。それぞれの候補地において当てはめて考えてみても、どの場所でもそれなりのリスクや課題があると感じた。それらのリスクや課題について、お金を投入することでどれだけ解決できるか、ということも考えていかなければならない。二つ目は教育環境の面。校地内の動線の話や小中合わせて9年間通学する、毎日歩くということも頭に入れて考える必要がある。もう一つはみんなの学校という形で、みんなに愛されて、またそこで育つ子どもたちが、この学校で育ったと思えるような学校にしていきたい。そういった時の環境がどういうものが望ましいのか、またそれはお金をかけてでもそれが必要だというなら、その説明ができるようにしておけばいいし、そうでないならば、リスクを低減するために既存の環境をどう利用していくか、そういったところを委員の皆様と考えていければいいと思う。ただ、それも未来の話なので具体的に話すことも難しいのかもしれないが、教育環境のコンセプトの部分について、補足させていただいた。

佐藤委員長

非常にそれぞれ多様な観点からお話をいただいた。私もそれぞれ一長一短があるというように感じた。ひとつ目は防災面。ふたつ目は経済性。三つ目は安全、利便性。実際にこれから未来をになう子供たちが実際に通学することになる。子どもが利用する、子どもの視点に立って、考えることがとても重要ではないかと感じた。通学方法、通学路のことも大事な論点になると感じた。みんなの学校というのを牧之原市は打ち出しているので、子どもと一緒に、地域の皆様、保護者の皆様が一緒に活動するような、今後の学校の役割、交流の拠点になるようなことを考えていかなければならないと感じた。これからの将来の地域というものがどうなっていくのか、考察していく必要があると感じた。最後に、皆様のお手元にあるチェックシートは、優先順位や合意形成するために重要な観点に乗っているので、今日感じたことを整理して次回に活かしていただきたい。

市長

【市長挨拶】16:40～

安全安心で通いやすいところを候補地として出させていただいた。

津波のこと、河川の洪水、土砂災害に対する安全性等と絞り込みをしていくと、作れる場所は限られている。横断的なまちづくりが大事。もちろんのこと。これから60年、70年と使うことになる施設。そういう観点で選定していただきたい。

これまでも横断的にやってきて、ここまで絞り込んできた、というようになっている。これからも横断的に積極的に取り組み、最終的に個々の候補地がいいということで合意形成を図っていきたいと考える。

水野室長	<p>◇事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none">・候補地状況確認シートの記入、提出のお願い・会議資料の取り扱い（守秘義務）について説明 <p style="text-align: right;">以上</p>
------	--